

<潟上市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗検証シート>

基本目標1 雇用創出のための産業振興

(1)基本とする目標及びその達成状況

指 標	基準値		実績値				目標値	
	H26	H27	H28		H29		H31	
納税義務者1人当たりの課税対象所得	2,378,000円	2,364,000円	対目標 92.3%	2,387,500円	対目標 93.3%	2,404,800円	対目標 93.9%	2,560,400円以上

(2)基本的方向

- 新たな産業の育成と企業の立地環境の向上を目指すとともに、新たな技術やサービスによる商品の高付加価値化、市内企業の競争力強化を支援します。また、関係機関と連携し、起業に対する支援や経営指導の強化を図ります。
- 農林水産業の成長産業化に向けて、強い経営体の育成、米依存から複合型生産構造への転換、6次産業化を推進します。
- 総合戦略産業としての観光を推進しながら、交流人口の拡大を図り、地域経済への波及効果を高めます。

(3)具体的な施策等及び重要業績評価指標(KPI)

施策の名称		重要業績評価指標(KPI)	基準値	実績値			目標値	H29進捗状況	KPI評価
1-1	継続的な安定雇用の実現	中小企業振興融資保証制度 利用件数 H22～H26(累計)	H26(H22～26)	H27	H28	H29	H31(H27～31)	累計154件 103.4%	S
			142件	45件	41件	68件	149件		
1-2	新産業の創出と既存産業のブ ランド化・高付加価値化の推進	主要観光施設入込客数	H26	H27	H28	H29	H31	89.5%	C
		遊休市有地を活用した老 人福祉施設の整備件数	H26	H27	H28	H29	H31までに	累計2件 200.0%	S
		—	—	1件	1件	1件			
1-3	企業誘致による雇用の創出	企業、事業所の誘致件数	H26	H27	H28	H29	H31までに	累計3件 150.0%	S
		—	—	1件	2件	2件			
1-4	生産現場の強化による競争力の 高い農業への転換	奨励措置に対する認定件 数	H26	H27	H28	H29	H31	100.0%	S
		2件	2件	3件	2件	2件			
1-4	生産現場の強化による競争力の 高い農業への転換	認定農業者の数	H26	H27	H28	H29	H31	102.4%	S
		218人	218人	221人	215人	210人			
1-5	持続可能な生産基盤の維持	農業生産力向上事業補 助件数	H26	H27	H28	H29	H31	100.0%	S
		21件	22件	20件	23件	23件			
1-5	持続可能な生産基盤の維持	多面的支払交付金事業 の支払面積	H26	H27	H28	H29	H31	85.8%	B
		2,493ha	2,651.72ha	2,659.54ha	2,659.54ha	3,100ha			
1-5	持続可能な生産基盤の維持	漁獲量(海面)	H26	H27	H28	H29	H31	91.3%	B
		318t	478.1t	392.1t	456.7t	500t			

<潟上市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗検証シート>

(4) KPIの状況

基本目標中のKPI数 9

S	A	B	C	D
6	0	2	1	0

【KPI評価 凡例】

- S 目標以上を達成
- A 概ね目標を達成
- B 目標達成に向け順調に推移
- C やや目標達成困難
- D 目標達成困難

(5) 内部評価

・地場産ふぐの販売を促進するための協議会を設立。他の市内特産品についても適宜検討する。
・市内観光施設及び潟上市夏の3大まつりは誘客施設・誘客イベントとして市内外に定着しているが、市内特産品のブランド化事業と連携し高付加価値化に取り組む。
・企業誘致活動及び誘致奨励により2件の新規誘致があった。企業誘致は結果が出るまでに時間を要するため、今後も継続的な活動が必要である。誘致対象業種を絞り込み、産業集積化による効果的な地域経済の活性化と雇用の創出を見込む。

(6) 外部評価(まちづくり市民会議からの評価・意見等)

・ブランド化や高付加価値化について、PRを進め浸透させて欲しい。
・主要観光施設入込客数について減少しているが、出戸浜海水浴場の清掃や観光施設での子供連れ客への対応など、お客様目線での気遣いが必要ではないか。
・企業誘致のほかに、事業所開業の助成を検討してみてもどうか。
・認定農業者の数が減っているが、企業への支援のほかに農業に向かってくれる方が増えればと思う。市で人材と農業のマッチングの支援が出来ないか。
・幅広い視点から観光地とのリンク等が必要だと思う。市をよく知ってもらうことで、移住定住の推進にも繋がり、いろいろな波及効果があると思う。
・起業を考えている人たちがその場所を決める一番の決め手はインターネット環境の充実とのこと。インターネット環境を整備し、エリアを設定して料金を安くするという方法などもあるのでは。

基本目標2 定住・移住対策

(1) 基本とする目標及びその達成状況

指 標	基準値	実績値						目標値
	H26	H27		H28		H29		H31
社会増減数 ※社会増減数(転入者数マイナス転出者数)	△56人 (H22～26の平均)	32人	対目標 —	△42人 2年平均△5人	対目標 860.0%	△31人 3年平均△14人	対目標 307.1%	△43人以下 (H27～31の平均)

(2) 基本的方向

- 次代を担う人材の育成を進めるとともに、市内企業の人材確保、就業環境の整備を図り、若者の市内定着を促進します。
- 潟上の良さをまるごと移住希望者に情報発信し、移住希望者とのマッチングを図るとともに、移住後のきめ細かいフォローアップ等により定住・移住の促進を図ります。

(3) 具体的な施策等及び重要業績評価指標(KPI)

施策の名称		重要業績評価指標(KPI)	基準値	実績値			目標値	H29進捗状況	KPI評価
2-1	定住・移住の支援	秋田移住定住総合支援センターに登録した潟上市移住希望者数	H26	H27	H28	H29	H31	43.3%	C
			4人	5人	17人	13人	30人		
2-2	情報発信による移住の促進	全国移住ナビのアクセス件数	H27(4～12月)	H27	H28	H29	H31	24.5%	D
			70件	92件	94件	108件	1,200件		

(4) KPIの状況

基本目標中のKPI数 2

S	A	B	C	D
0	0	0	1	1

【KPI評価 凡例】

- S 目標以上を達成
- A 概ね目標を達成
- B 目標達成に向け順調に推移
- C やや目標達成困難

<潟上市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗検証シート>

(5) 内部評価

・定住・移住対策の根幹は「雇用の場」や「子育て・教育環境」の充実である。また、問い合わせ等に対応する職員のスキルアップも欠かせない。今後も庁内部署と連携し、施策を推進していく。

・平成の大合併で誕生した本市は、全国的にみても知名度が低いと思われる。まずは、「潟上市」を知ってもらい移住検討の選択肢に加えてもらうことが重要と考える。そのため、市をPRできるイベントなどの機会を捉えて積極的に参加すること、および、県や秋田移住定住総合支援センター等と連携した活動を今後も展開していきたい。

(6) 外部評価(まちづくり市民会議からの評価・意見等)

・移住について、若い人たちだけでなく、リタイア世帯もターゲットにしているのではないかと。

・KPIについて、秋田定住移住総合支援センターに登録した潟上市移住希望者数や、全国移住ナビのアクセス件数であったりと、「待ち」の指標になっている。もっと具体的な手段の検討が必要ではないかと。

・市ホームページでの移住・定住情報や観光情報をより充実させるなど検討してはどうか

基本目標3 少子化対策

(1) 基本とする目標及びその達成状況

指 標	基準値	実績値						目標値
	H26	H27		H28		H29		H31
出生数	203人 (H22～26の平均)	197人	対目標 —	196人 2カ年平均197人	対目標 92.9%	188人 3カ年平均194人	対目標 91.5%	212人 (H27～31の平均)

(2) 基本的方向

○ 誰もが安心して結婚・妊娠・出産・子育てできるよう官民一体となった取り組みを展開し、「脱少子化」への機運を醸成するとともに、男女の出会いから、家庭を持ち、夫婦が理想とする数の子どもを産み育てるため、独身者や子育て世代など、各世代のニーズを踏まえた支援を実施します。

(3) 具体的な施策等及び重要業績評価指標(KPI)

施策の名称	重要業績評価指標(KPI)	基準値	実績値				目標値	H29進捗状況	KPI評価
		H26	H27	H28	H29	H31			
3-1 子どもを産み育てやすい環境づくり	不妊治療助成制度による出生数	H26	H27	H28	H29	H31	86.7%	B	
		13人	14人	10人	13人	15人			
3-2 出逢い・結婚支援の充実	あきた結婚支援センター登録者数	H26	H27	H28	H29	H31	110.0%	S	
		74人	81人	86人	88人	80人			
3-3 就学前教育と保育環境の充実	地域子育て支援センターの利用者数	H26	H27	H28	H29	H31	98.3%	A	
		5,701人	7,664人	6,484人	6,587人	6,700人			
3-4 子どもの学び、遊び、居場所の充実	長期欠席者割合(市立小中学校)	H26	H27	H28	H29	H31	73.0%	B	
		1.35%	1.07%	1.33%	1.37%	1.0%			
	英検3級取得割合(中学3年生)	H26	H27	H28	H29	H31	87.5%	B	
		32%	33.1%	20.5%	35.0%	40%			

(4) KPIの状況

基本目標中のKPI数 5

S	A	B	C	D
1	1	3	0	0

【KPI評価 凡例】
 S 目標以上を達成
 A 概ね目標を達成
 B 目標達成に向け順調に推移
 C やや目標達成困難

<潟上市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗検証シート>

(5) 内部評価

・安心して妊娠・出産・子育てができるよう特定・一般不妊治療費の助成の継続を実施した。また、各種予防接種の接種勧奨により接種率は90%以上となっており、経済的支援と感染症の予防・拡大防止を図ることができている。

・出産祝い金の支給制度や中学生までの医療費の無料化等による経済的支援や、子育てに関する悩みなどの相談体制の整備により、子育て世代が安心して生活できる環境づくりに努めた。

・2年目となった通学費支援制度事業は、広報等による周知の効果もあり、申請件数が約300件増加した。広報等の周知、受付時間の延長等を引き続き行い、申請件数が増加とするよう努める。

・結婚支援は人口減少対策のひとつとして重要なものとなっており、29年度からは出逢いの場を設定する事業・団体に補助金を交付する制度を設けたところ、1事業の実施があった。各制度のPR活動を進めていく必要がある。

(6) 外部評価(まちづくり市民会議からの評価・意見等)

- ・次の子供を産みたい時に、就園している子供が一回退園させられるという制度は見直しが必要ではないか
- ・中学生海外ホームステイ事業助成金について、オーストラリア以外の国も検討してもいいのではないか
- ・市内3中学校だけでなく、南南中等部等、他の学校に通う市内中学生も対象としてはどうか
- ・市イベント等の際に、若い人に企画運営してもらい、そこでの出逢いを期待するなど、方向を少し変えて背中を押してあげることも考えてみてはどうか

基本目標4 新たな地域社会の形成

(1) 基本とする目標及びその達成状況

指 標	基準値	実績値						目標値
	H26	H27		H28		H29		H31
住み続けたいと思う人(満足度)	48.1%	—	対目標 —	—	対目標 —	—	対目標 —	50%

(2) 基本的方向

- 地域資源の活用を促進するとともに、地域活動や社会活動の担い手となる若者・女性等の活動を支援するほか、多様な主体との協働を促進し、コミュニティの維持・活性化を図ります。
- 人口減少社会にあっても住民サービスの水準を維持し、安心して暮らせるまちづくりを進めます。

(3) 具体的な施策等及び重要業績評価指標(KPI)

施策の名称		重要業績評価指標(KPI)	基準値	実績値			目標値	H29進捗状況	KPI評価
			H26	H27	H28	H29	H31		
4-1	公共交通の維持・確保	地域公共交通網形成計画の策定	—	—	素案策定	策定	完了	100.0%	S
4-2	女性・若者の活躍支援	ワーク・ライフ・バランスを進める事業所数	4社	5社	8社	9社	7社	128.6%	S
4-3	地域における安心の確立	自主防災組織設置数	29団体	29団体	29団体	33団体	50団体	66.0%	B
		介護予防ボランティア数	—	48人	64人	77人	100人	77.0%	B
4-4	協働のまちづくりの推進	まちづくり活動団体助成事業応募件数(5年間の累計)	2件	3件	4件	1件	15件	累計8件 53.3%	C
		審議会等の公募委員数(5年間の累計)	2人	14人	9人	2人	15人	累計25人 166.7%	S

(4) KPIの状況

基本目標中のKPI数 6

S	A	B	C	D
3	0	2	1	0

【KPI評価 凡例】

- S 目標以上を達成
- A 概ね目標を達成
- B 目標達成に向け順調に推移
- C やや目標達成困難

<潟上市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗検証シート>

(5) 内部評価

- ・今後も交通弱者の生活の足を確保するため、潟上市地域公共交通網形成計画に基づき事業を進めていく必要がある。平成31年度には路線を見直し、利便性の向上と持続可能な公共交通ネットワークの再構築について検討していく必要がある。
- ・女性消防団活動についてはより一層の活性化が図られたと感じる。今後も市内全域で女性団員ならでのきめ細かな消防活動が展開できるよう入団促進に努めたい。近年の異常気象に伴い多発する台風や集中豪雨等の初期対応について、自助、共助活動の主となる自主防災組織育成は重要と捉えており、引き続き出前講習等各自治会に出向き啓発に取り組んでいる。
- ・多発する特殊詐欺はその手口も巧妙化している。今後も相談員のスキルアップを図り、関係機関と協力しながら対応していくと同時に地域住民の消費生活に対する意識を高めていく必要がある。
- ・包括的支援事業において、新規事業として、2事業を実施することにより、地域包括ケアシステム構築の体制が整い、これから、実際に事業をすすめていくこととなる。
- ・市民主体のまちづくりを目指していくうえで、自治会やコミュニティ組織などの地域に根ざした団体の自主的な活動を支援することは重要である。今後は市民がまちづくりに対して堅苦しさを感せず気軽に参画しやすくなるような機会を創出するなど工夫する必要がある。

(6) 外部評価(まちづくり市民会議からの評価・意見等)

- ・公共交通機関について、利用者が少ないからやめてもいいというのではなく、利用者が少ないのはなぜなのかという観点が必要。
- ・女性・若者の活躍支援の施策中のウィッグ助成について、潟上市は見識があると思う。人の気持ちにどれだけ寄り添えるかを考えるまちであってほしい。
- ・まちづくり団体活動助成事業の応募件数がC評価だが、PR不足ではないか。希望者がいなくて応募がないのか、制度があることを知らなくて応募がないのか、検証が必要。